

中間評価シート

中間評価（表紙）

千曲市歴史的風致維持向上計画（平成28年5月19日認定） 中間評価（平成28年度～令和2年度）原案

■ 統括シート（様式1）	2
■ 方針別シート（様式2）	
I 歴史的建造物の保存・活用の推進	3
II 歴史的建造物等を取り巻く環境の保全	4
III 歴史と伝統を反映した人びとの活動の継承	5
IV 歴史的風致の認識を高めるための取組みの推進	6
■ 波及効果別シート（様式3）	
i 歴史・文化財に対する住民意識の向上	7
ii 企画展時の入館者数の増加	8
■ 代表的な事業の質シート（様式4）	
A 稲荷山伝統的建造物群保存地区 保存整備事業	9
B 八幡地区町並み整備事業	10
C 智識寺大御堂整備事業	11
■ 歴史的風致別シート（様式5）	
1 善光寺街道にみる歴史的風致	12
2 武水別神社にみる歴史的風致	13
3 更級の月と姨捨の棚田にみる歴史的風致	14
4 戸倉上山田温泉にみる歴史的風致	15
5 北国街道にみる歴史的風致	16
6 雨宮坐日吉神社にみる歴史的風致	17
7 あんずの里にみる歴史的風致	18
8 森將軍塚古墳にみる歴史的風致	19
9 千曲川流域にみる歴史的風致	20
■ 庁内体制シート（様式6）	21
■ 住民評価・協議会意見シート（様式7）	22
■ 全体の課題・対応シート（様式8）	23

市町村名	千曲市	評価対象年度	H28～R2年
① 歴史的風致			
	歴史的風致	対応する方針	
1	善光寺街道にみる歴史的風致	I, II, III, IV	
2	武水別神社にみる歴史的風致	I, II	
3	更級の月と姨捨の棚田にみる歴史的風致	II, III	
4	戸倉上山田温泉にみる歴史的風致	I, II, III	
5	北国街道にみる歴史的風致	I, III	
6	雨宮坐日吉神社にみる歴史的風致	III	
7	あんずの里にみる歴史的風致	III, IV	
8	森将軍塚古墳にみる歴史的風致	IV	
9	千曲川流域にみる歴史的風致	III	
② 歴史的風致の維持向上に関する方針			
	方針		
I	歴史的建造物の保存・活用の推進		
II	歴史的建造物等を取り巻く環境の保全		
III	歴史と伝統を反映した人びとの活動の継承		
IV	歴史的風致の認識を高めるための取組みの推進		
③ 歴史まちづくりの波及効果			
	効果		
i	歴史・文化財に対する住民意識の向上		
ii	企画展時の入館者数の増加		
④ 代表的な事業			
	取組み	事業の種別	
A	稲荷山伝統的建造物群保存地区 保存整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
B	八幡地区街並み整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
C	智識寺大御堂整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	

市町村名	千曲市	評価対象年度	H28～R2年
方針	I 歴史的建造物の保存・活用の推進	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】個人等が所有している建造物は、所有者の高齢化や相続等の問題も加わり修理が進まないものが多々あり、歴史的な建造物の減少も危惧されている。また、未指定文化財については、指定文化財に比べてその価値が十分に認識されていないために、維持管理が行われなまま急速に老朽化が進み、中には失われてしまった貴重な建造物等も存在している。

【方針】指定文化財の建造物は保存・活用を図る。損傷が進行しているものは適切な修理を行い保存する。指定文化財以外の建造物は、本計画に基づく歴史的風致形成建造物に指定するとともに、千曲市文化財保護条例に基づく文化財の指定、または文化財保護法に基づく登録有形文化財を検討し、今後の保存・活用を図る。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	稲荷山伝統的建造物群保存地区 保存整備事業	修理・修景を14件実施	あり	H27～R7
2	八幡地区街並み整備事業	松田家の齋館、大門塀等の修理	あり	H29～R7
3	智識寺大御堂整備事業	茅葺屋根等の修理	あり	H28～H29
4	文化財の保存(文化財調査・指定、保存管理・活用等)	登録有形文化財に2件(4棟)を登録	なし	H29～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

- 稲荷山伝統的建造物群保存地区 保存整備事業
稲荷山伝統的建造物群保存地区において歴史的建造物の修理・修景を行い、歴史的なまちなみの維持・向上を図った。
- 八幡地区町並み整備事業
平成29年9月6日に発生した火災により、県宝(当時)の松田家齋館をはじめとする主要建造物が焼損した。その後、齋館の修理、大門塀の修理、大門の路面の美装化を実施し、まちなみの再建・整備を行った。
- 智識寺大御堂整備事業
重要文化財である「智識寺大御堂」の茅葺屋根等の修理を行い、歴史的建造物の保全を行った。
- 文化財の保存(文化財調査・指定、保存管理・活用等)
歴史的価値を有する建造物について、新たに登録有形文化財に登録し、歴史的景観の保全を行った。



登録有形文化財に登録した
寿高原食品四階倉庫 H29.6



登録有形文化財に登録した
瀧澤家住宅主屋 H29.6

④ 自己評価

個人や法人が所有する歴史的建造物の修理・修景事業の実施により、歴史的なまちなみを維持・向上することができた。また、新たに登録有形文化財への登録を行うなど、歴史的景観の保全が図られた。

⑤ 今後の対応

今後も国庫補助事業等を活用して、継続的に歴史的価値を有する建造物の保存・活用を推進する。
また、八幡地区町並み整備事業では、火災により焼損した主屋等を早期に修理し、歴史的なまちなみの再建を図る。

市町村名	千曲市	評価対象年度	H28～R2年
方針	Ⅱ 歴史的建造物等を取り巻く環境の保全	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】当市には自然環境と一体となって特色ある歴史的風致を形成しているものが多いことから、歴史的風致を阻害する景観支障木や枯損木等の伐採を行う必要がある。姨捨の棚田においては、水源となる里山等の整備を毎年行っていく必要がある。
 【方針】自然環境の適切な維持管理を図る。姨捨の棚田の水源となる里山等は計画的に整備を図っていくものとする。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	稲荷山伝統的建造物群保存地区 環境整備事業	拠点施設整備に向けた用地の確保、街路灯のLED化を20基実施	あり	H27～R7
2	更級・姨捨地区 環境整備事業	景観支障木の伐採、管理道、水路の整備、トイレの増設・水洗化	あり	H28～R7
3	水源涵養里山整備事業	登山道の手入れ、遊歩道の修理	あり	H28～R7

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

●稲荷山伝統的建造物群保存地区 環境整備事業

稲荷山伝統的建造物群保存地区内に拠点施設を整備するための用地を確保した。また、街路灯のLED化を行いまちなみ空間の向上を図った。

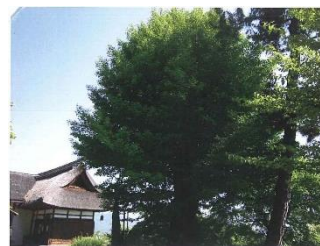
●更級・姨捨地区 環境整備事業

長楽寺周辺の景観支障木を伐採し、景観を維持した。
 また、上姪石地区の管理道・水路を整備するとともに、姪石苑トイレの増設・水洗化を実施し、耕作しやすい環境を整えた。

●水源涵養里山整備事業

冠着山の登山道の手入れや大池の遊歩道の修理を実施し、周辺環境の整備を行った。

長楽寺周辺の
景観支障木伐採



伐採前 H29.5



伐採後 H29.7

大池の遊歩道修理



修理前 H30.4



修理後 H30.6

④ 自己評価

当市は自然環境と一体となって特色ある歴史的な風致や遺産を形成しているものが多いため、景観支障木の伐採や登山道の手入れ、遊歩道の修理を実施することにより、景観の維持、周辺環境の整備を行うことができた。

⑤ 今後の対応

稲荷山伝統的建造物群保存地区は、拠点施設の整備等を行い、まちなみの連続性や景観の一体性を図る。

更級・姨捨地区は、名勝「姨捨(田毎の月)」や重要文化的景観「姨捨の棚田」の周辺環境を整備し、棚田の保全に取り組む。

市町村名	千曲市	評価対象年度	H28～R2年
方針	Ⅲ 歴史と伝統を反映した人びとの活動の継承	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】祭礼や伝統行事等は、担い手である地域住民の活動の継承に対する使命感やボランティア精神に頼る部分が大きく、コミュニティ意識の希薄化や近年の人口減少、少子高齢化を背景とした担い手の不足など、中には活動の継承が危惧されるものもある。同様に、姨捨の棚田における耕作でも後継者不足や営農意識の低下に直面している。
 【方針】特有の地形を生かした姨捨の棚田における稲作については、営農意識の向上を図る。また、将来の担い手の育成にあたっては、地域住民や保護団体への支援を実施することにより、後継者育成、伝承者の育成を図る。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	姨捨の棚田耕作支援施設整備事業	来訪者用駐車場の用地の取得、整備	あり	H29～R3
2	祭礼行事の記録映像作成事業	雨宮の神事芸能の記録映像作成	なし	R元～R2

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

●姨捨の棚田耕作支援施設整備事業

「姨捨の棚田」周辺には駐車場が少なく、来訪者が棚田の管理道に路上駐車するなどして、耕作に支障をきたすとともに、棚田の景観を損ねていた。

対応策として、平成30年度に駐車場の用地を取得し、令和元年度に立木の伐採や草刈りを行い駐車場を整備した。

駐車場の整備により、路上駐車抑制と景観の維持につながると考える。

●祭礼行事の記録映像作成事業

雨宮地区で3年ごとに行われる「雨宮の神事芸能」を継承するため、令和2年に行う祭礼行事の様子を映像として記録することとした。

記録映像は、準備作業や練習の様子から撮影を開始したが、新型コロナウイルス感染症の影響により、神事以外は中止になったため、撮影の中断を余儀なくされた。

姨捨の棚田駐車場整備



整備前 R元.9



整備後 R2.3

④ 自己評価

姨捨の棚田の来訪者用駐車場の整備により、棚田の管理道への路上駐車を抑制する効果と良好な景観の維持に期待できる。耕作しやすい環境の整備により、耕作者の営農意識の向上を図ることができた。

記録映像作成事業の中断は、雨宮の神事芸能が3年に一度の開催であることを考えると、新型コロナウイルス感染症の影響とはいえ非常に残念である。



雨宮の神事芸能の記録映像撮影の様子 R2.1

⑤ 今後の対応

姨捨の棚田の来訪者用駐車場については、立木を伐採した跡に残った根株を取り除く抜根の作業や転落防止柵の設置等を実施する。また、棚田という地形上、耕作者の農機具を保管するスペースがないため、駐車場の一部に農機具用の小屋を設置することにより耕作者を支援する。

雨宮の神事芸能の記録映像作成については、次回（令和5年）の事業実施を検討する。

市町村名	千曲市	評価対象年度	H28～R2年
方針	IV 歴史的風致の認識を高めるための取組みの推進	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】歴史的風致に係る文化財等について詳細な調査が行われていない箇所がある。また、情報発信の拠点となる施設についても十分活用されているとは言い難いため、今ある施設を十分に活用しつつ歴史的風致の認識を高めていく工夫が求められている。

【方針】歴史的風致に係る文化財等の詳細な調査が行われていない箇所については、実態の解明を図るため調査を行い、その成果としての記録の保存及び情報の発信を行う。地域の歴史や文化、伝統、価値に関する認識の向上を図る。

② 事業・取組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	歴史資源調査活用事業	稲荷山城跡範囲確認調査事業を実施	あり	H29～R7
2	歴史文化の発信事業	市内小学校での講義を実施（年1回）	あり	H29～R7
3	文化財の保存及び活用の普及・啓発	企画展の開催（年1回）	なし	H29～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

●歴史資源調査活用事業

稲荷山のまちなみ形成の契機となった稲荷山城跡の範囲の調査を行った。

推定周辺で実施した調査では、稲荷山城に関わる遺構の検出は認められなかったものの、善光寺地震に伴うとみられる大火の焼土を含む火災後の整地層を確認することができた。

●歴史文化の発信事業

市の歴史文化に関する講義を上山田小学校の児童を対象に実施した。

将来の担い手である子供たちに、郷土学習を通して地域の魅力の発信することができた。

●文化財の保存及び活用の普及・啓発

森将軍塚古墳館にて企画展を開催した。

イベントを通して、地域の文化財の情報発信と、歴史的風致に関する理解や認識を深める取組ができた。

稲荷山城跡範囲確認調査事業



調査区全景
H30.8



火災後の整地層
H30.8



上山田小学校での講義
H31.1

④ 自己評価

歴史資源調査活用事業は、地権者の協力もあり貴重なデータを得ることができた。

また、機会を捉え、幅広い年齢層に対して地域の歴史文化に関する魅力や情報の発信を行ったことにより、市民の郷土の歴史等に関する認識が深まったと考える。

⑤ 今後の対応

歴史資源調査活用事業は、調査地点を選定や発掘調査のほか、現代の地割図や明治時代の地籍図等を用いて実態解明に取り組む。

歴史文化の発信事業は、地域の魅力や歴史文化を積極的に発信することにより、歴史的風致に関する認識の向上と郷土愛の醸成を図る。

市町村名	千曲市	評価対象年度	H28～R2年						
効果	i 歴史・文化財に対する住民意識の向上								
① 効果の概要 「市民意識調査」において、「歴史・文化財」の市政にとっての重要度が3.8ポイント増加									
② 関連する取り組み・計画									
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度						
1	第二次千曲市総合計画	あり	H29～R8						
2	千曲市都市計画マスタープラン	あり	H30～R8						
3	千曲市景観計画	あり	R元～						
③ 効果発現の経緯と成果									
<p>● 市が実施した「令和2年度市民意識調査」（平成29年度までは「市民満足度調査」という名称で実施）において、「歴史・文化財」の取組が市政にとって「重要である」、「やや重要である」と回答した割合の合計値が、平成27年度の数値と比較して3.8ポイント増加した。</p> <p>● 歴史・文化財に対する住民意識を高めるための主な取組として、次のような事業が挙げられる。</p>		<p>「歴史・文化財」の取組の重要度</p> <table border="1"> <caption>「歴史・文化財」の取組の重要度</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>重要度（割合）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成27年度</td> <td>73.9%</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>77.7%</td> </tr> </tbody> </table> <p>平成27年度 令和2年度 市民意識調査（旧市民満足度調査）より</p>		年度	重要度（割合）	平成27年度	73.9%	令和2年度	77.7%
年度	重要度（割合）								
平成27年度	73.9%								
令和2年度	77.7%								
<p>(1) 歴史的建造物の修理工事見学会の開催 歴史的建造物の魅力や情報を発信する取組として、重要文化財「智識寺大御堂」の茅葺屋根葺き替えの工事見学会を2度開催し、市民の文化財保護意識の向上を図った。工事見学会は合計で約200名の参加があった。</p>		<p>重要文化財「智識寺大御堂」の修理工事見学会の様子 H29.5</p>							
<p>(2) ワークショップや講演会の開催 重要伝統的建造物群保存地区を有する稲荷山地区の地元住民が参加する「防災について考えるワークショップ」の開催や、市と稲荷山地区の地元団体が協働でまちづくりに関する講演会を複数回開催する等、歴史や文化財に対する意識を高める取組を行った。</p>		<p>稲荷山地区の防災を考えるワークショップの様子 H29.8</p>							
<p>(3) 消防訓練の実施 文化財防火デーに合わせ消防訓練を実施し、文化財の所有者等に対して火災の予防対策の徹底や防災意識の向上の啓発に取り組んだ。</p>		<p>観龍寺での消防訓練 H31.1</p>							
④ 自己評価									
<p>多方面からの取組により「歴史・文化財」が市政にとって重要であると考えた市民が増加した。また、沖縄県那覇市の首里城跡やフランスのノートルダム大聖堂が焼失したことも、市民の意識を高めた要因の一つと考える。</p>									
⑤ 今後の対応									
<p>「歴史・文化財」の施策に対する市民の意識や関心が高まっているため、引き続き、歴史的風致を維持・向上させる事業や取組を推進する。</p>									

市町村名	千曲市	評価対象年度	H28～R2年																
効果	ii 企画展時の入館者数の増加																		
<p>① 効果の概要</p> <p>企画展開催期間中は、千曲市森將軍塚古墳館の入館者が増加</p>																			
<p>② 関連する取り組み・計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>他の計画・制度</th> <th>連携の位置づけ</th> <th>年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>第二次千曲市総合計画</td> <td>あり</td> <td>H29～R8</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>千曲市都市計画マスタープラン</td> <td>あり</td> <td>H30～R8</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>千曲市景観計画</td> <td>あり</td> <td>R元～</td> </tr> </tbody> </table>					他の計画・制度	連携の位置づけ	年度	1	第二次千曲市総合計画	あり	H29～R8	2	千曲市都市計画マスタープラン	あり	H30～R8	3	千曲市景観計画	あり	R元～
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度																
1	第二次千曲市総合計画	あり	H29～R8																
2	千曲市都市計画マスタープラン	あり	H30～R8																
3	千曲市景観計画	あり	R元～																
<p>③ 効果発現の経緯と成果</p> <p>市の貴重な文化財の活用を図るため、千曲市森將軍塚古墳館において企画展を開催し、郷土の歴史的資源の情報発信を行った。</p> <p>企画展を開催する千曲市森將軍塚古墳館の入館者数は、近年減少傾向にあるものの、企画展開催期間中は入館者数が増加し、大勢の方が見学に訪れた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●平成29年度 秋季企画展 「千曲市の文化財と森嶋稔」展 (1)開催期間：平成30年8月30日～10月9日 (2)入館者数：3,040人 (3)年間月平均：1,791人 ●平成30年度 秋季企画展 「松田館の四百年」展 (1)開催期間：平成30年8月26日～10月8日 (2)入館者数：2,713人 (3)年間月平均：1,741人 ●令和元年度 秋季企画展 「さらしな はにしな 寺 仏」展 (1)開催期間：令和元年8月24日～9月29日 (2)入館者数：1,861人 (3)年間月平均：1,639人 ●令和2年度 企画展 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止 																			
<p>④ 自己評価</p> <p>歴史や文化財に対する住民意識の高まりから、多くの市民に見学に訪れていただいた。 効果的に郷土の歴史に触れる機会を提供できた。</p>																			
<p>⑤ 今後の対応</p> <p>機会を捉え、郷土の歴史的資源の情報発信に努め、住民意識の高揚と貴重な文化財の活用を図る。</p>																			



「千曲市の文化財と森嶋稔」展展示解説リーフレット H29



「松田館の四百年」展ポスター H30



「さらしな はにしな 寺 仏」展ポスター R元

市町村名	千曲市	評価対象年度	H28～R2年
取り組み	A 稲荷山伝統的建造物群保存地区 保存整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設
<p>① 取り組み概要</p> <p>稲荷山伝統的建造物群保存地区は、稲荷山地区の北部に位置し、範囲は東西約200m、南北約850m、面積は約13.0haである。平成26年（2014）12月10日に国の重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けた。</p> <p>稲荷山伝統的建造物群保存地区では、平成28年度から令和2年度までの5年間で、歴史的建造物の修理12件、修景2件を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H28: 修理2件、修景0件 ・H29: 修理3件、修景0件 ・H30: 修理1件、修景0件 ・R元: 修理1件、修景1件 ・R2: 修理5件、修景1件 ・合計: 修理12件、修景2件 <p>修理・修景の事業主は建造物の所有者であるため、文化庁の補助金を活用して整備を進めた。</p>			
<p>清水家土蔵</p>			
			
修理前 H29.6		修理後 H30.3	
<p>丸山家主屋</p>			
			
修理前 H30.10		修理後 H30.12	
<p>② 自己評価</p> <p>稲荷山伝統的建造物群保存地区内の建造物の修理・修景により、歴史的なまちなみの連続性や景観の一体性が保たれつつあり、良好なまちなみの維持・向上が図られた。</p> <p>文化庁の補助金を活用する等、建造物の所有者の理解と協力を得ながら、事業を推進することができた。</p>			
外部有識者名	井原 今朝男（千曲市文化財保護審議会 会長）		
外部評価実施日	令和3年4月5日		
<p>③ 有識者コメント</p> <p>当該保存地区は、屋代・松代・篠ノ井と並んで江戸後期から昭和初期にかけて地域商業経済圏の繁栄を示す歴史景観の建造物群をもっており、5年間の修理12件・修景2件の整備事業によって個別的・拠点的な歴史景観の維持・復元に寄与できた。所有者や地権者の意向と保存事業との調整がむづかしい中ではあるが、長期的な見通しの中で、住民との意思疎通に最善で万全な努力が一層望まれる。</p>			
<p>④ 今後の対応</p> <p>引き続き、国庫補助事業等を活用して修理・修景を行う等、継続的に歴史的価値を有する建造物の保存・活用を推進する。</p> <p>また、まちづくり活動を行う地元団体と連携し、空き家に関する情報の共有や既存の用途にとられない建物の利活用を検討する。</p>			

市町村名	千曲市	評価対象年度	H28～R2年
取り組み	B 八幡地区町並み整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設

① 取り組み概要

八幡地区にある武水別神社の神主は代々松田家が務め、居館は武水別神社に隣接し、屋敷地約2,000坪の周囲を堀と土塁で囲んでいる。松田家では、四百数十年にわたり居館を神主屋敷としてきた。現在、堀の一部は道路敷や宅地として埋め立てられている。

松田家の館は、平成29年9月6日に発生した火災により、県宝(当時)の松田家齋館をはじめとする主要建造物が焼損してしまった。

平成30年度中の一般公開を目指して周辺整備を進めていたが、この火災により、松田館の一般公開の時期を延期した。

その後、計画を見直し、齋館の修理、大門塀の修理、大門の路面の美装化を実施し、まちなみの再建・整備を行った。



修理前 H29.6

修理後 H30.11



修理前 R元.10

修理後 R2.3

② 自己評価

松田家齋館は、四百数十年も引き継がれてきた伝統行事である武水別神社の「大頭祭」の祭事が行われる等、現在でも儀式の場としての役割を持った建造物であり、将来にわたり守り伝えていきたい歴史的風致である。火災後の早期の修理実施は、伝統行事の継承や歴史的なまちなみの維持に寄与した。

外部有識者名	井原 今朝男（千曲市文化財保護審議会 会長）
外部評価実施日	令和3年4月5日

③ 有識者コメント

神主松田家館跡内の齋館は文久元年(1861)、排仏毀釈にともなう神官邸の格式化のために式台玄関や潔斎場を新築したものであり、焼失前の建築上の与条件に忠実に復元して修造された。また大門塀の修繕も、近世以降の暗渠跡の上に建造された近代の建造物であることがわかり、大正・昭和年間の地域の迎賓館としての歴史的景観をよく復元できた。歴史的風致の中核施設での歴史景観の復元に寄与できる整備事業になった。

④ 今後の対応

今後は、火災により焼損した松田家主屋の修理、周辺の通路や駐車場の整備を行い、松田家の館の早期公開を目指す。

市町村名	千曲市	評価対象年度	H28～R2年
取り組み	C 智識寺大御堂整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設

① 取り組み概要

戸倉上山田地区の温泉街から徒歩で20分程のところにある「智識寺」は、真言宗の寺院で、地元や周辺地域の人々が参拝に訪れる。

また、智識寺の境内周辺は、「智識の杜公園」として整備されており、「あじさい寺」としてあじさいの花のシーズンには参拝者が大勢訪れる。

智識寺の本堂は重要文化財に指定され、「大御堂（おおみどう）」と呼ばれている。

室町時代の末期に建築されたとみられる智識寺の大御堂は、茅葺屋根の劣化が進行していたため、文化庁の補助事業を活用して屋根葺き替えの修理工事を実施した。

智識寺大御堂



修理前 H28.10



修理後 H29.9

② 自己評価

智識寺大御堂の茅葺屋根の葺き替えにより、重要文化財の保全と歴史的風致の維持・向上を図った。

更には、歴史的建造物の魅力や情報を発信する取組として、葺き替えの工事見学会を2度開催した。工事見学会は合計で約200名の参加があり、市民の文化財保護意識の向上にも寄与したと考える。

外部有識者名	井原 今朝男（千曲市文化財保護審議会 会長）
外部評価実施日	令和3年4月5日

③ 有識者コメント

智識寺大御堂は、国重文の平安仏をまつる寺院建築で、寄棟造・茅葺の室町末期の建造物で国重文である。今回の修造事業は慶長・明治・昭和につづく茅葺修造で、専門的な与条件に基づいて、文化財の歴史的価値を保存・維持することができた。整備事業のもつ歴史的意義を市民にも恒久的に広報する方法の改善が望まれる。

④ 今後の対応

重要文化財の一層の保全に努め、歴史的風致の維持・向上を図る。

当該事業の歴史的意義の市民への恒久的な広報について、国の考えを踏まえ検討する。

市町村名	千曲市	評価対象年度	H28～R2年
歴史的風致	1 善光寺街道にみる歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	I 歴史的建造物の保存・活用の推進 II 歴史的建造物等を取り巻く環境の保全 III 歴史と伝統を反映した人びとの活動の継承 IV 歴史的風致の認識を高めるための取組みの推進		

① 歴史的風致の概要

善光寺街道にみる歴史的風致の一つは、江戸時代から続く稲荷山伝統的建造物群と、そこに暮らしてきた人びとが自ら町を守る自衛団の活動と、その伝統的な町並みを舞台とする伝統行事の祇園祭である。

善光寺街道にみる歴史的風致の二つ目は、江戸時代後期の造り酒屋の酒蔵や通りに面した長屋門や土塀、桑原宿の面影を残すうだつや格子戸の建物とともに、伝統的な酒造りと中原の獅子舞神楽である。

② 維持向上の経緯と成果

稲荷山の祇園祭は、現在も7月中旬の3日間行われている。江戸中期に始まったとされ、勇壮な祭りや歴史的な街並みとの調和が、物資の中継地として繁栄を誇った商都の賑わいを今日に伝えている。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、神事のみで開催となった。



稲荷山の祇園祭

平成26年（2014）に重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けた「稲荷山伝統的建造物群保存地区」では、歴史的建造物の修理・修景により、歴史的なまちなみの連続性や景観の一体性が保たれつつあり、良好なまちなみの維持・向上が図られている。

また、拠点施設を整備するための用地を確保し、今後のまちづくりのための準備を進めた。

稲荷山町屋敷東蔵小路のブロック塀修景



修景前 R元.5

重要伝統的建造物群保存地区の選定を受け、市と稲荷山地区の地元まちづくり団体が連携して「ウォーキングガイド善光寺街道稲荷山」の情報を更新した。

おすすめコースや歴史的建造物を解説する内容で、まちなみ散策時に活用できる冊子となっている。

稲荷山の歴史や文化を紹介する内容も含まれているため、稲荷山伝統的建造物群保存地区の情報発信にも役立っている。



修景後 R元.10

③ 自己評価

稲荷山伝統的建造物群保存地区における歴史的建造物の修理・修景が着実に進んでおり、良好なまちなみや景観が維持されている。また、散策用の冊子の更新により、情報発信も図れた。

祭礼・行事も継続して実施されており、歴史的風致が維持されている。

④ 今後の対応

稲荷山伝統的建造物群保存地区内には多くの歴史的建造物が現存し、修理・修景を必要とするものがあるため、保存整事業を継続して実施する。また、拠点施設整備等の環境整備事業も推進し、歴史的風致の向上に努める。

市町村名	千曲市	評価対象年度	H28～R2年
歴史的風致	2 武水別神社にみる歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	I 歴史的建造物の保存・活用の推進 II 歴史的建造物等を取り巻く環境の保全		

① 歴史的風致の概要

武水別神社は、八幡地区の中央に位置し、「八幡宮」「お八幡さん」の名で親しまれている神社である。

八幡地区は、武水別神社を中心に参拝客のための旅館・料理屋・飲食店などの町屋が軒を並べた門前町として形成された町並みである。

毎年12月10日から14日にかけて行われる武水別神社の「大頭祭」は、「お練り」とも呼ばれる新嘗祭の行事で、市内外から大勢の見物人で賑わう。その起源は明らかではないが、文禄2年（1593）から現在まで、一度も中断することなく四百数十年にわたり引き継がれてきた伝統行事である。秋の収穫が終わり厳しい冬の訪れを告げる風物詩となっている。

② 維持向上の経緯と成果

武水別神社の大頭祭（新嘗祭）は、現在も12月10日から15日の6日間開催されている。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、神事と頭人行事のみ行い、宝船や神楽舞等の奉納行事は全て中止となった。

松田家の居館は四百数十年にわたり武水別神社の神主屋敷としてきたが、平成29年9月6日に発生した火災により、県宝（当時）の松田家齋館をはじめとする主要建造物が焼損してしまった。

そのため、平成30年度に国土交通省の交付金を活用して、齋館を修理し、令和元年度には大門塀の修理、大門の路面の美装化を実施し、まちなみの再建・整備を行った。

また、松田家の館が焼損した翌年の平成30年には、火災が発生した9月6日に合わせて千曲坂城消防組合に防災に関する指導を依頼し、関係者を参集し現地を実施した。

改めて、文化財の防火管理等の点検・確認を行い、防火対策を徹底した。



大頭祭での出達儀式
（火災前の松田家齋館にて）



修理後の松田家齋館

H30.11

③ 自己評価

国土交通省の交付金を活用し、火災により焼け壊れた一部の文化財を修理することができた。延焼を免れた文化財の修理も進んでおり、まちなみの再建・整備が図れた。

火災を繰り返さないようにするため、関係者の防火意識を高め、防火対策を徹底した。

祭礼・行事も継続して実施されており、歴史的風致が維持されている。



消防署による松田館の防火
対策の指導

H30.9

④ 今後の対応

今後は、火災により焼損した松田家主屋等を早期に修理し、歴史的なまちなみを再建するとともに、歴史的風致の維持・向上を図る。

市町村名	千曲市	評価対象年度	H28～R2年
歴史的風致	3 更級の名月と姨捨の棚田にみる歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	II 歴史的建造物等を取り巻く環境の保全 III 歴史と伝統を反映した人びとの活動の継承		

① 歴史的風致の概要

三峰山山麓斜面に広がる棚田は、平成11年5月に名勝「姨捨(田毎の月)」として、農耕地の水田では我が国で初めて文化財指定を受けた。さらに、平成22年2月には名勝指定地を含めた棚田地域、水源地・更級川など64.3haが重要文化的景観「姨捨の棚田」に選定されている。

更級地区や八幡地区の姨捨周辺は、古く平安時代から京の都でも知られた月の名所であった。中世以降に耕作が始まったとみられる姨捨の棚田は、江戸時代にさらに棚田が拡大するとともに、長楽寺や棚田が観月の名所となり、多くの文学作品や絵画が創作された。

更級の名月や姨捨の棚田一帯は、古くから観月の地とされ現在に引き継がれている。

② 維持向上の経緯と成果

市が、日本の伝統文化である「月見」をテーマに、『月の都 千曲 一姨捨の棚田がつくる摩訶不思議な月景色「田毎の月」』と題して申請していた日本遺産について、文化庁や日本遺産審査委員会の厳正な審査を経て、令和2年6月19日に認定された。

今後は更に、更級の名月や姨捨の棚田の認知度の向上や、歴史的風致の維持・向上が進むと考える。

更級・姨捨地区環境整備事業としては、上姪石地区の管理道・水路の整備や姪石苑トイレの増設・水洗化を実施した。

また、姨捨の棚田耕作支援施設整備事業では、来訪者の棚田の管理道への路上駐車により、耕作に支障をきたすとともに、棚田の景観を損ねていたため、駐車場の整備により路上駐車抑制と景観の維持を図った。

これらの取組により、耕作しやすい環境の整備と良好な景観の維持を図った。更には、耕作者の営農意識の向上に寄与することができた。



姨捨の棚田と鏡台山から昇る満月



姨捨の棚田の稲刈り



増設・水洗化した姪石苑のトイレ R元.10

③ 自己評価

日本遺産に認定されたことにより、更級の名月と姨捨の棚田の知名度向上や、市民の歴史的資源に対する意識の高揚が期待できる。

施設整備や環境整備により、耕作者の耕作環境の改善につながり、耕作者の営農意識の更なる向上を図ることができた。更には、新たな担い手の確保につなげたい。

④ 今後の対応

姨捨の棚田への駐車場整備や農機具の保管庫を整備し、耕作者の支援と良好な景観を保つことにより、歴史的風致の維持・向上を図っていく。

日本遺産のストーリーを語るうえで欠かせない文化財の保護や整備に取り組む。

また、棚田や農業に関心を持ってもらえるよう、棚田の水源地散策、農作業体験等の取組を通し、新たな担い手の確保に結び付けていく。

市町村名	千曲市	評価対象年度	H28～R2年
歴史的風致	4 戸倉上山田温泉にみる歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	I 歴史的建造物の保存・活用の推進 II 歴史的建造物等を取り巻く環境の保全 III 歴史と伝統を反映した人びとの活動の継承		

① 歴史的風致の概要

戸倉上山田温泉は、開湯120年の歴史を有する長野県屈指の規模を誇る温泉街である。千曲川の河原に開湯され、温泉旅館を中心に温泉街が展開し、中には後の旅館建築に大きな影響を与えた和風旅館建築もあり温泉街を形成している。

また、度重なる千曲川の水害から温泉街を守るために祀った水天宮の祭りとして始まった温泉夏祭は、発展し戸倉上山田温泉夏祭として賑わい、河川敷での納涼煙火大会とともに、夏の風物詩となっている。

さらに、重要文化財の智識寺大御堂や十一面観音立像と、地域に伝承される十一面観音信仰や太々御神楽は、地域の人びとによって守り伝えられてきた歴史的風致を形成している。

② 維持向上の経緯と成果

戸倉上山田温泉夏祭は、現在も7月中旬の土曜日と日曜日の2日間開催されている。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、元水天宮と水天宮の神事のみを行い、勇獅子や神輿、民謡流し等の行事・催物は中止となった。



戸倉上山田温泉夏祭 R元.7

智識寺大御堂整備事業では、茅葺屋根の葺き替えにより、重要文化財の保全と歴史的風致の維持・向上を図った。

また、文化財の防災に関する取組として、智識寺にて消防訓練を実施した。当日は、智識寺住職・総代会、地元自治会、消防署、消防団、市及び市教育委員会の関係者あわせて約50名が参加し、通報訓練、情報伝達訓練、初期消火訓練、収蔵文化財搬出訓練及び放水訓練を行った。貴重な文化財を保存・活用するため、万が一の火災に備え、関係者の防火意識を高め、防火対策の一層の推進を図った。



智識寺での消防訓練 R2.2

小学生を対象にした市の歴史文化に関する講義を毎年実施している。

戸倉上山田温泉地区の歴史や上山田地区の養蚕業の歴史について説明した。

地域の歴史に関する理解を深め、意識の高揚を図ることで、郷土愛の醸成に寄与するものと考える。



小学生への講義に使用した資料の一部 R2.1

③ 自己評価

智識寺大御堂の茅葺屋根の葺き替えにより、重要文化財の保全を行うことができた。

消防訓練や郷土学習を通して、地元住民に地域の歴史や文化財に触れる機会を提供できている。

祭礼・行事も継続して実施されており、歴史的風致が維持されている。

④ 今後の対応

温泉街特有の景観に配慮した環境整備を行うとともに、夏祭等の祭礼・行事を通して温泉街の魅力を発信することにより、歴史的風致の維持・向上を図っていく。

市町村名	千曲市	評価対象年度	H28～R2年
歴史的風致	5 北国街道にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的建造物の保存・活用の推進 III 歴史と伝統を反映した人びとの活動の継承		

① 歴史的風致の概要

北国街道は、中山道と北陸道を結ぶ街道で、佐渡の金銀の運搬や加賀前田藩の参勤交代に使われるなど、越後や北陸と江戸を結ぶ主要な街道の一つである。

北国街道の隣り合う宿場には、当時の神社建築を代表する諏訪の宮大工、立川流と大隅流の二流派の神社建築が建てられた。

重要文化財に指定されている下戸倉宿の水上布奈山神社本殿は、大隅流宮大工の柴宮長左衛門矩重によって、矢代宿の須須岐水神社本殿は、立川流宮大工の立川和四郎富昌によって建築された。

そうした神社を中心に、街道に面した宿場町から発展した戸倉・屋代地区には、神社の特徴的な建造物とともに、それぞれの祭礼が現在に引き継がれ歴史的風致を形成している。

② 維持向上の経緯と成果

下戸倉宿で酒造業を営み、「下の酒屋」と呼ばれていた坂井銘醸株式会社には、宝暦10年(1760)頃に建てられた茅葺の主屋や寛政蔵等の歴史的建造物が残されており、8棟が登録有形文化財として保存されている。

登録有形文化財 坂井銘醸 寛政蔵

しかしながら、令和元年東日本台風により、寛政蔵、昭和蔵、文庫蔵について土壁が剥がれ落ちる等の大きな損傷を受けた。



修理前 R元.10

これらは貴重な文化財であるとともに、下戸倉宿の歴史的風致を形成する重要な建造物であることから、令和元年度千曲市文化財保護事業として、所有者に修理費用の一部を補助し、文化財の修理・保存するための対策を講じた。

修理工事は令和2年度に完了し、原形に復旧することができた。

坂井銘醸株式会社は、茅葺屋根の主屋で飲食店を営むとともに、登録有形文化財の建造物を酒造道具や所蔵資料の展示場として活用している。

観光客の立寄りスポットになっており、歴史的風致の形成に大きな役割を果たしている。



修理後 R2.5

③ 自己評価

台風により損傷を受けた文化財に対し、市独自の支援策を講じ、修理することができた。また、歴史的風致を形成する重要な建造物の維持に寄与した。

④ 今後の対応

歴史的風致の構成要素である歴史的建造物等の保存が図られるよう、市としての取組を検討する。

市町村名	千曲市	評価対象年度	H28～R2年
歴史的風致	6 雨宮坐日吉神社に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅲ 歴史と伝統を反映した人びとの活動の継承		

① 歴史的風致の概要

北国街道の矢代宿から分岐した松代道沿いの集落である雨宮地区に鎮座する雨宮坐日吉神社には、氏子である地域住民によって伝承される重要無形民俗文化財「雨宮の神事芸能」（御神事）がある。

雨宮の神事芸能は、「雨宮の御神事」、「獅子踊り」とも呼ばれる雨宮坐日吉神社の祭礼行事である。御神事の起源は明確でないが、200年以上の歴史を有する。

かつては屋代田んぼ周辺一帯の村々の合同の祭りであったが、現在は雨宮地区のみで行われている。雨宮地区でも、昭和47年（1972）までは4月29日に毎年行っていたが、以後3年ごとに行われるようになり、現在に至っている。

② 維持向上の経緯と成果

昭和56年に重要無形民俗文化財に指定された雨宮の神事芸能は、その担い手である雨宮区の住民の人口減少や高齢化、更には、他の地域からの移住者による住民構造の変化により、次代に受け継いでいくことが急速に難しくなっている。

このため、平成25年度から平成27年度にかけ、実態調査及び歴史的史料の調査を行った。

雨宮の神事芸能を継承するため、調査成果を基に、令和2年に行う祭礼行事の様子を映像として記録することとした。

この映像化の取組に当たっては、有識者や神事芸能の伝承指導者等から構成する記録映像作成委員会を組織し事業を進め、記録映像の撮影は業者に依頼して行うこととした。

3年ごとに行われるため、記録映像は令和元年の準備作業や練習の様子から撮影を開始した。

しかしながら、令和2年は新型コロナウイルス感染症の影響により、神事以外中止になったため、撮影の中断を余儀なくされた。



雨宮の御神事「橋懸り」
H29.4



記録映像作成委員会
R元.10



記録映像撮影の様子
R2.1

③ 自己評価

記録映像作成事業の中断は、この事業が重要無形民俗文化財を後世に継承するための取組であることや、雨宮の神事芸能が3年に一度の開催であることを考えると、新型コロナウイルス感染症の影響とはいえ非常に残念である。

④ 今後の対応

次回（令和5年）の記録映像の作成について検討を行う。

市町村名	千曲市	評価対象年度	H28～R2年
歴史的風致	7 あんずの里に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅲ 歴史と伝統を反映した人びとの活動の継承 Ⅳ 歴史的風致の認識を高めるための取組みの推進		

① 歴史的風致の概要

森・倉科地区は、土壌が礫質土のため水田に適さず、大きな石や礫の多い畑地となっている。こうした畑地では、江戸時代から代々あんず栽培が行われてきた。

あんずは作物であるが、春に桜の花より一足早く咲く淡いピンク色の花により、集落全体がピンク色に染まったように咲くあんずの花は、当市の春を代表するものである。

古くからあんずの栽培とともに、あんずの花見が行われてきた歴史があり、森地区のあんずまつりは、昭和31年（1956）4月14、15日に開催されたことに始まり、現在まで60回以上を数える。

森・倉科地区にある古い農家の建物と、在来種のアんずの大木は、あんず栽培の歴史を物語るものであるとともに、特色ある農村景観として花見や絵画の題材ともなっている。

② 維持向上の経緯と成果

市は、あんずを「市花」に定めるとともに、在来種のアんずの木を保存樹木として指定している。

在来種のアんずは、品種改良種のアんずよりも花が濃いピンク色で、更に大きな古木であるため花が見事である。

景観形成に大きく寄与している保存樹木を大切に保護し、歴史的風致の維持・向上を図った。

あんずで地元を盛り上げようと、60年以上前から「あんずまつり」を開催している。

当初は5千人ほどであった花見客は、現在では約10万人の方が訪れるようになった。

あんずまつりは例年、3月末頃から4月中旬にかけて開催していたが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。

あんずの里の拠点施設の一つである「あんずの里スケッチパーク」では、25品種、200本のあんずの木を育てており、歴史的風致を形成している。

あんずの木の手入れや、施設の修繕を行うことにより、歴史的風致の維持に取り組んだ。



開花したあんずの花



あんずの実



あんずまつりの様子

③ 自己評価

あんずの里は、森・倉科地区の住民の協力のもと、この地域特有の農村景観を維持できている。

保存樹木の管理者に管理保育経費の一部を助成する等、歴史的風致の維持・向上に努めた。

④ 今後の対応

住宅の建替えや老木化により、高木のあんずが減少傾向にあるため、地元の住民やあんずの木の所有者に対してあんずの木の保存を働きかけ、あんずの里の原風景の維持に努める。

また、あんずの里スケッチパークについては、あんずの木の剪定等の手入れを徹底するとともに、施設の適切な維持管理により、景観の維持に取り組む。

市町村名	千曲市	評価対象年度	H28～R2年
歴史的風致	8 森將軍塚古墳にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	IV 歴史的風致の認識を高めるための取組みの推進		

① 歴史的風致の概要

森將軍塚古墳は、全長100mの前方後円墳で、大型首長墓の前方後円墳では長野県下最大規模の前方後円墳である。平成4年(1992)に、築造当時の姿に復原整備され広く公開されている。
 森將軍塚古墳の保存は、昭和4年(1929)の調査から市民の保存運動を経て、復原整備されるまでにおよそ60年を要した。
 地域に残る文化財の古墳を後世に伝えるために、市民自ら保護活動や積極的に活用を行っている姿は、古墳とともに歴史的風致を形成しているといえる。

② 維持向上の経緯と成果

森將軍塚古墳の復原・保存に当たっては、昭和4年(1929)の調査から市民の保存運動を経て、整備されるまでにおよそ60年を要した。特に、昭和45年(1970)の保存運動では、市民の9割もの署名が集まった。

平成2年(1990)には、保存運動に携わった市民有志により「森將軍塚古墳友の会」が結成され、古墳周囲の草取りやボランティアガイドを行っている。

また、平成4年からは毎年11月3日に「森將軍塚まつり」を開催し、古墳周辺に整備されている科野の里歴史公園には1万人ほどの来場者があり、市を代表するイベントの一つとなっているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントは中止となった。

郷土の古墳を後世に伝えるために、市民自らが保護活動やイベントに携わっている姿は、古墳とともに歴史的風致を形成している。

古墳は、築造当時と同じ材料や同じ工法で復原しているため、雨水の浸透や冬季の凍結により、平成25年(2013)に墳丘の一部が崩落したため、平成28年度までの4か年をかけて修理を行った。

築造当時の姿に完全復原した古墳は全国的に珍しいため、古墳の写真が小中学校の教科書に掲載されたことをきっかけに、多くの児童・生徒が見学に訪れるようになった。



森將軍塚古墳



森將軍塚まつり

森將軍塚古墳の墳丘の修理



修理前 H25.2



修理後 H29.3

③ 自己評価

森將軍塚古墳の崩落した墳丘を修理し、歴史的風致の維持を図った。
 多くの見学者に古墳に触れてもらい、また、その魅力を伝えることができた。

④ 今後の対応

森將軍塚古墳は尾根上に築かれているため、見学者の安全をより一層確保するための整備を推進する。
 古墳の保護活動やボランティアガイドを行う団体等を支援し、歴史的風致の維持・向上を図る。

市町村名	千曲市	評価対象年度	H28～R2年
歴史的風致	9 千曲川流域にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅲ 歴史と伝統を反映した人びとの活動の継承		

① 歴史的風致の概要

千曲市の市名の由来となっている千曲川と人びとの関わりは、とても深いものがある。千曲川の豊かな水は、流域の人びとに多くの恵みをもたらす一方で、たびたび氾濫し大きな被害をもたらしてきた。また、伝統行事の祭りや川魚にみられるように、心の拠所や楽しみの場としてきた。セルリアンブルーの千曲川の流れとともに、堤防での祭事や千曲川での禊ぎなど伝統行事、風物詩のつけ場は、千曲川中流域に暮らす人びとにとってかけがえのない歴史的風致である。

② 維持向上の経緯と成果

千曲川の支流の沢山川の斎場橋から獅子を逆さに吊るす「橋懸り」と呼ぶ神事を行う「雨宮の神事芸能」や、千曲川の水で禊ぎをしてから餅つきを行う「大頭祭」の伝統行事のように、千曲川流域は、そこに暮らす住民にとってかけがえのない歴史的風致の維持に寄与している。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、各地で伝統行事や祭りの開催中止が相次ぐ中、「大頭祭」での禊ぎの行事は関係者の努力により行うことができた。



水防資料館の見学 H31.3

千曲川は度々氾濫してきたが、歴史的に大きなものは平安時代の仁和4年(888)に起きた「仁和の大洪水」や、江戸時代の寛保2年(1742)の「戌の満水」がある。

平成31年3月には、市内の文化財の基礎調査等を行う千曲市文化財調査委員会が、国土交通省千曲川河川事務所戸倉出張所に併設されている水防資料館の視察を行った。

館内には、近代以降の千曲川の水防事業に関する資料が展示され、改めて千曲川水系における治水事業の重要性を認識した。



令和元年東日本台風による千曲川の増水の様子
(撮影：令和元年10月13日 千曲坂城消防組合) R元.10

令和元年東日本台風では、千曲川の杭瀬下水位観測所で観測史上最高の6.4m(令和元年10月12日夜)の水位を記録し、内水氾濫が発生した。

③ 自己評価

現下のコロナ禍では、従前のように伝統行事を行うことができない状況である。その中で、「大頭祭」での禊ぎの行事は、関係者の努力により継続して行われおり、千曲川流域にみる歴史的風致を維持しているといえる。

④ 今後の対応

令和元年東日本台風での貴重な体験を通し、千曲川流域にみる歴史的風致は、水害との闘いや水害を防ぐための人びとの関わりによって形成されていることを市民に認識してもらい、受け継いでいく必要がある。

市町村名	千曲市	評価対象年度	H28～R2年
------	-----	--------	---------

① 庁内組織の体制・変化

計画の推進に当たり、庁内組織として「千曲市歴史まちづくり推進会議」を設置している。
 この組織は、会長に建設部長、副会長に教育部長、委員に関係各課の課長をもって構成し、事務局は、都市計画課と歴史文化財センターが担っている。
 会議は年1回開催し、事業計画の確認と前年度の進捗評価の報告を行っている。

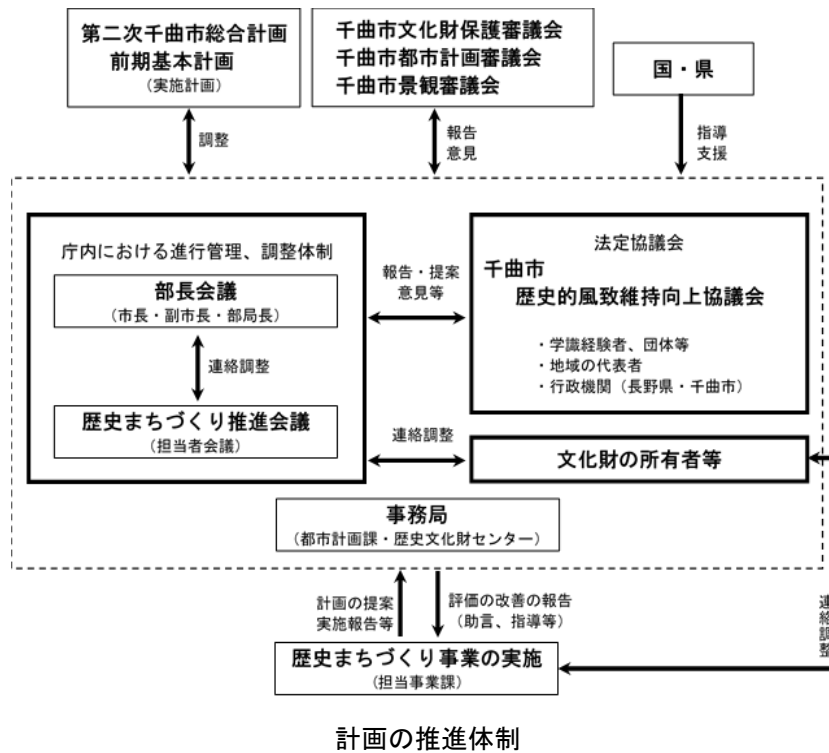
事務局の都市計画課は、主に庁内の連絡調整や進行管理、法定協議会（千曲市歴史的風致維持向上協議会）の運営を担当している。

歴史文化財センターは、主に個別事業の推進や文化財の所有者との調整等を担当している。

事務局と関係各課の担当者との協議・連絡調整は随時行うこととし、事業の進行管理を図っている。



歴史まちづくり推進会議



② 庁内の意見・評価

- 歴史的風致維持向上計画の策定により、歴史や文化財等に関する事業を一元的に管理することができるようになった。
- 千曲市歴史まちづくり推進会議により、部課を横断して情報共有を図り、連携して事業を推進することができた。

市町村名	千曲市	評価対象年度	H28～R2年																												
<p>① 住民意見</p> <p>令和2年度「市民意識調査」集計・分析結果報告書より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査対象 満18歳以上の市民 ・調査票配布数 2,000票 ・有効回収数 1,288票（有効回収率64.4%） ・調査期間 令和2年5月1日～令和2年5月15日 <p>● 「歴史・文化財」の取組への満足度</p> <p>「そう思う」、「ややそう思う」と回答した割合の合計 54.2%</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div data-bbox="279 600 699 674"> <p>満足度</p> </div> <div data-bbox="794 533 1358 931"> <table border="1"> <caption>満足度の割合</caption> <thead> <tr> <th>満足度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>そう思う</td> <td>16.9%</td> </tr> <tr> <td>ややそう思う</td> <td>37.3%</td> </tr> <tr> <td>あまりそう思わない</td> <td>21.7%</td> </tr> <tr> <td>そう思わない</td> <td>7.1%</td> </tr> <tr> <td>わからない</td> <td>15.7%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>1.2%</td> </tr> </tbody> </table> </div> </div> <p>● 「歴史・文化財」の取組の重要度</p> <p>「重要である」、「やや重要である」と回答した割合の合計 77.7%</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div data-bbox="279 1093 778 1167"> <p>重要度</p> </div> <div data-bbox="810 1010 1342 1413"> <table border="1"> <caption>重要度の割合</caption> <thead> <tr> <th>重要度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>重要である</td> <td>36.5%</td> </tr> <tr> <td>やや重要である</td> <td>41.2%</td> </tr> <tr> <td>あまり重要でない</td> <td>11.3%</td> </tr> <tr> <td>重要でない</td> <td>2.5%</td> </tr> <tr> <td>わからない</td> <td>7.2%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>1.2%</td> </tr> </tbody> </table> </div> </div>				満足度	割合	そう思う	16.9%	ややそう思う	37.3%	あまりそう思わない	21.7%	そう思わない	7.1%	わからない	15.7%	無回答	1.2%	重要度	割合	重要である	36.5%	やや重要である	41.2%	あまり重要でない	11.3%	重要でない	2.5%	わからない	7.2%	無回答	1.2%
満足度	割合																														
そう思う	16.9%																														
ややそう思う	37.3%																														
あまりそう思わない	21.7%																														
そう思わない	7.1%																														
わからない	15.7%																														
無回答	1.2%																														
重要度	割合																														
重要である	36.5%																														
やや重要である	41.2%																														
あまり重要でない	11.3%																														
重要でない	2.5%																														
わからない	7.2%																														
無回答	1.2%																														
<p>② 協議会におけるコメント</p>																															

市町村名	千曲市	評価対象年度	H28～R2年
<p>① 全体の課題</p> <p>1 歴史的建造物に関する課題 個人等が所有する建造物は、居住者の高齢化や相続等の問題から修理が進まないものが多く、今後、歴史的な建造物やまちなみの維持が困難になることが予想される。 また、未指定文化財については、指定文化財に比べてその価値が十分に認識されていないために、維持管理が行われないうまま急速に老朽化が進み、貴重な建造物が失われてしまうことが懸念される。</p> <p>2 歴史的建造物等を取り巻く環境に関する課題 自然環境と一体となって特色ある歴史的風致を形成しているものが多いことから、それぞれの歴史的風致に即した維持管理を行う必要がある。 また、今後、空き家や空き地の増加により、まちなみの連続性や景観の一体性が失われることが懸念される。</p> <p>3 歴史と伝統を反映した人びとの活動に関する課題 祭礼や伝統行事等は、担い手である地域住民の使命感やボランティア精神に頼る部分が多く、コミュニティ意識の希薄化や人口の減少、少子高齢化に伴う担い手不足等により、後世への継承が課題である。 姨捨の棚田では、耕作者の後継者不足や営農意識の低下に直面している。</p> <p>4 歴史的風致の認識に関する課題 当市の歴史的風致の認知度は、高いとは言えないのが現状である。 それぞれの歴史的風致が持つ多様な魅力を効果的に発信するとともに、認知度を高めるため、その発信方法も工夫する必要がある。</p>			
<p>② 今後の対応</p> <p>1 歴史的建造物の保存・活用の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 稲荷山伝統的建造物群保存地区保存整備事業では、国庫補助事業等を活用して修理・修景を行う等、継続的に歴史的価値を有する建造物の保存・活用を推進する。 ○ 八幡地区町並み整備事業では、火災により焼損した主屋等を早期に修理し、歴史的なまちなみの再建を図る。 ○ 文化財の防災・防火意識の普及啓発に努め、防災・防火対策の一層の推進を図る。 ○ 文化財保存活用地域計画を作成し、文化財指定の有無を問わず、歴史的な価値を有するものについては保存・活用を図る取組を推進する。 <p>2 歴史的建造物等を取り巻く環境の保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 歴史的風致を阻害する景観支障木や枯損木等の伐採を行う。 ○ 冠着山の登山道の手入れや大池の遊歩道の修理を実施し、里山の整備を行う。 ○ あんずの木の保存樹木の管理者に管理保育経費の一部を助成する。 ○ 稲荷山伝統的建造物群保存地区の空き家については、まちづくり活動を行う地元団体と連携し、空き家に関する情報の共有や既存の用途にとられない建物の利活用を検討する。また、空き地については、拠点施設の整備等を行い、まちなみの連続性や景観の一体性を図る。 <p>3 歴史と伝統を反映した人びとの活動の継承</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 雨宮の神事芸能は、記録映像の作成について検討を行う。 ○ 森将軍塚古墳の保護活動やボランティアガイドを行う団体等への支援を行う。 ○ 姨捨の棚田に耕作者用の農機具を保管する小屋を設置し、耕作者の支援を行う。 <p>4 歴史的風致の認識を高めるための取組の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「月の都 千曲」が日本遺産に認定されたため、歴史的風致の魅力と一体的にPRする等、効果的な情報発信により認知度の向上を図る。 ○ 将来の担い手である子供たちに、郷土学習を通して地域の魅力の発信する。 ○ 企画展等の開催により、地域の歴史的資源の情報発信を行う。 			